



支部だより

第 86 号

編集・発行

〒464-0039

名古屋市千種区日和町2-18

名古屋地方気象台内

日本気象学会中部支部

電話 052-751-5124

2018.11.12

目次

・ 中部支部第 23 期役員選挙結果の報告	1
・ 2018 年度（平成 30 年度）中部支部総会の報告	1
・ 第 22 回公開気象講座の報告	2
・ 平成 30 年度中部支部研究会のお知らせ	3

◆ 中部支部第 23 期役員選挙結果の報告

第 22 期役員の任期が 2018 年 6 月 30 日で満了となるため、第 23 期の支部役員選挙の開票が 6 月 25 日に木下信好会員の立会いのもと、選挙管理委員会（渡邊進委員長、松川基委員）により行われました。開票結果は以下のとおりです。なお、第 23 期役員の任期は 2018 年 7 月 1 日から 2020 年 6 月 30 日までの 2 年間です。

1. 理事

東海地区（愛知県、岐阜県、三重県）

当選	120 票	松村 崇行	名古屋地方気象台
当選	121 票	坪木 和久	名古屋大学
当選	120 票	立花 義裕	三重大学
当選	119 票	田口 正和	愛知教育大学
当選	120 票	辻川 才太	岐阜地方気象台
当選	120 票	槇野 泰夫	気象予報士会東海支部

北陸地区（富山県、石川県、福井県）

当選	121 票	安永 数明	富山大学
----	-------	-------	------

長野・静岡地区（長野県、静岡県）

当選	120 票	轡田 邦夫	東海大学
----	-------	-------	------

2. 会計監査

当選	120 票	畑佐 真司	日本気象協会中部支社
----	-------	-------	------------

◆ 2018 年度（平成 30 年度）中部支部総会の報告

2018 年度日本気象学会中部支部総会が 7 月 4 日（水）、16 時 00 分から名古屋地方気象台会議室において開催されました。開会の辞、松村崇行支部長の挨拶のあと、名古屋地方気象台の渡邊会員を議長に選出し、議事進行をお願いしました。事務局から出席者数と委任状の提出数の報告があり、総会成立条件を満たしていることが確認されました。その後、支部だより第 85 号に掲載された議案(1)～(5)について審議されました。

(1) 2017 年度（平成 29 年度）事業報告

事務局から、支部だより（第 83 号、第 84 号）発行、第 21 回公開気象講座、支部研究会と気象サイエンスカフェの開催について報告があり、承認されました。

(2) 2017 年度（平成 29 年度）中部支部会計報告

事務局から 2017 年度の会計報告があり、承認されました。

(3) 2017 年度（平成 29 年度）中部支部会計監査報告

畑佐会計監査から 2017 年度の支部会計が適正に処理されている旨の報告があり、承認されました。

(4) 2018 年度（平成 30 年度）中部支部事業計画案

事務局から下記の事業計画案が提案され、賛成多数により承認されました。

- ・支部だより（第 85 号、第 86 号）の発行
- ・第 22 回公開気象講座「集中豪雨 知る・診る・備える」の開催（8 月 24 日、名古屋市科学館サイエンスホール）
- ・平成 30 年度中部支部研究会の開催（11 月 29 日～30 日 三重大学）
- ・気象サイエンスカフェの開催（名古屋で 10 月と 2 月の 2 回、長野で 1 回の開催予定）

(5) 2018 年度（平成 30 年度）中部支部予算案

事務局から今年度の事業計画に基づいた予算案の提案があり、賛成多数により承認されました。

◆ 第 22 回公開気象講座の報告

日本気象学会中部支部主催の公開気象講座は、気象学に関する専門的かつ最新の知識を一般の方々に分かりやすく解説することを目的に開催されるもので、今年で 22 回目を数えます。今回は「集中豪雨 知る・診る・備える」のテーマで 8 月 24 日（金）に名古屋市科学館サイエンスホールで開催しました。松村崇行支部長の挨拶の後、気象庁の加藤輝之氏により「集中豪雨と線状降水帯」について、名古屋大学の高橋暢宏氏により「最新の気象レーダで診る豪雨」について、休憩をはさみ、静岡大学の牛山素行氏により「近年の豪雨災害と災害情報」について分かりやすく解説いただきました。最後に総合討論を行いました。参加者は 145 名を数え、多くの質問があり、関心の高さを感じました。



◆ 平成 30 年度日本気象学会中部支部研究会のお知らせ

中部支部研究会を 11 月 29 日(木)～30 日(金)に三重大学で開催します。ご興味のある方は是非、会場にお越しください。今年度より、講演要旨集は電子化、中部支部 web (支部研究会ページ) からダウンロード配布となります。

(PDF 閲覧パスワード: ■■■■■■)

1. 日時: 2018 年 11 月 29 日(木曜日) 13:00～18:30 (終了後、懇親会)
11 月 30 日(金曜日) 09:20～15:30

2. 場所: 三重大学 環境情報科学館 3F (三重県 津市)

3. 交通案内:

三重大学へは、近鉄 江戸橋駅から徒歩 15 分。

または、

JR/近鉄 津駅 東口バスのりば「4 番」から三重交通バスで、

「白塚駅」(06 系統)、「千里駅」(40 系統)、「三重病院」(51 系統)、

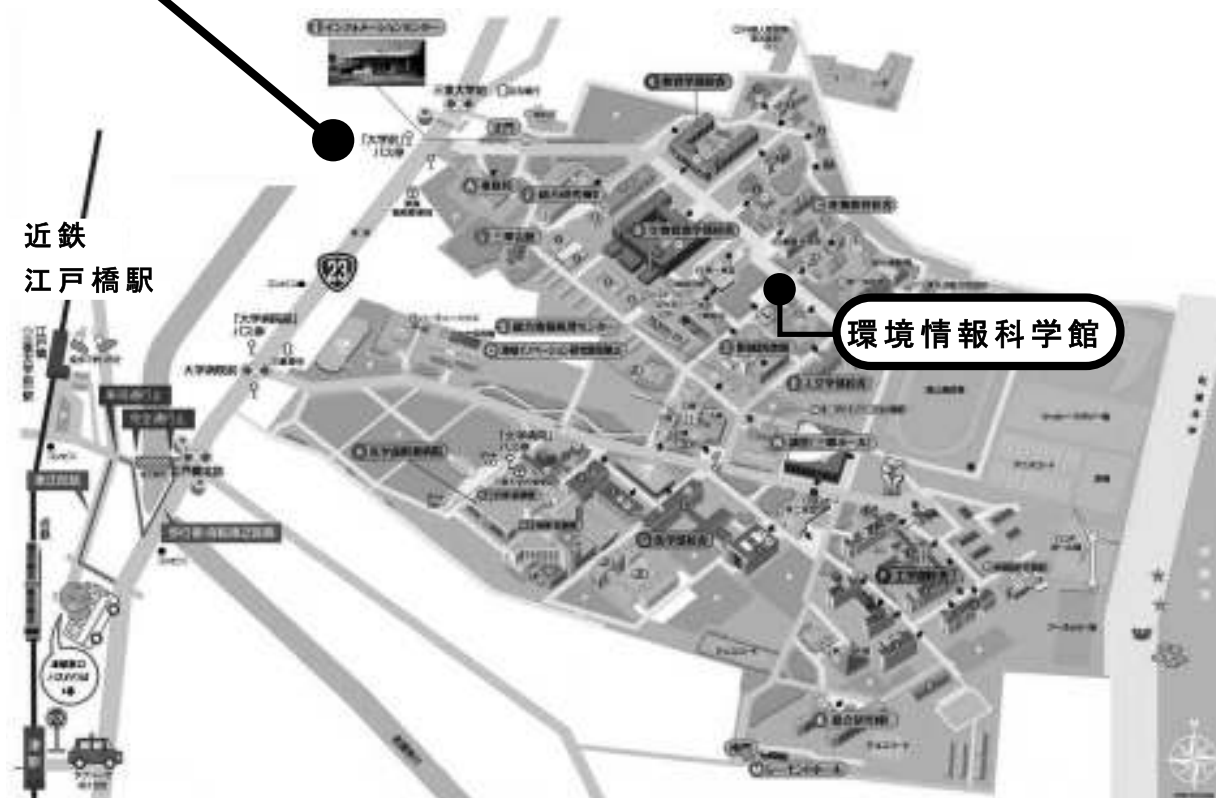
「棕本(むくもと)」(52 系統)、「豊里ネオポリス」(52 系統)、

「サイエンスシティ」(52 系統)、「三行(みゆき)」(53 系統)、

「高田高校前」(56 系統)行きで、

「三重大学前」下車。

詳細は <http://www.mie-u.ac.jp/traffic/> をご覧ください。



JR/近鉄 津駅 東口バスのりば「4 番」

JR で名古屋方面からお越しの場合、「快速みえ」をご利用ください

主催: 日本気象学会 中部支部

共催: 三重大学 大学院生物資源学研究科

◇ 支部研究会のプログラム

11 月 29 日(木) 13:00 ～ 18:10

13:00～13:10 開会の辞 松村 崇行 (中部支部長/名古屋地方気象台)

13:10～14:50

(1) 伊藤 忠 (気象予報士会)

「平成 30 年 7 月豪雨」で瀬戸内地方に見られた2つの局地的大気構造

(2) 西尾伊三男 (岐阜地方気象台)

線状降水帯の解析「平成 30 年 7 月豪雨」により岐阜県で発生した大雨事例より

(3) 森下 和也 (三重大学)

竜巻発生環境場の解析

(4) 鈴木 健 (三重大学)

濃尾平野での夕立発生場の解析

(5) 吉田 信夫 (多治見気象の会)

2018 年夏の猛暑記録からみた 2007 年 8 月 16 日の高温記録の評価

15:00～16:40

(6) 奥村 咲良 (富山大学)

梅雨期における日本付近の可降水量と降水量の長期変化について

(7) 山本 園実 (名城大学)

少雨域における降水の鉛直勾配

(8) 王 露莎 (名古屋大学)

内モンゴルにおける 7 月降水をもたらす擾乱とその年々変動(1961-2007)

(9) 松岡 優輝 (三重大学)

寒気吹き出し中に見られる三重県北部の降雪

(10) 太田 圭祐 (三重大学)

2017/18 年冬季の異常な北半球大気循環を形成する要因

16:50～18:10

(11) 町田 卓也 (東海大学)

冬季の東日本沖合に発生する収束帯による陸上への影響

(12) 三宅倫太郎(東海大学)

駿河湾湾奥部における海面総熱収支の評価

(13) 金杉 和樹 (東海大学)

全球海面淡水フラックスプロダクトの相互比較

(14) 吉川 契子 (清水西高校)

2018 年夏の静岡における気温と熱中症

18:30～20:00 懇親会 パセオ (三重大学生協 2F)

11 月 30 日(金) 09:20 ~ 15:30

09:20~10:40

- (15) 槇野 泰夫 (気象予報士会東海支部)

これが大気圧だったのか—『空気分子(N₂・O₂ など)の運動』の視点で—

- (16) 富山 芳幸 (気象環境教育センター)

予報と社会の安全:米国気象学会の挑戦と新たな展望

- (17) 大野 隆史 (名古屋市環境科学調査センター)

気温測定データに地表面形態の違いが及ぼす影響

- (18) 佐藤 真樹 (魚津埋没林博物館)

魚津埋没林博物館で 2018 年に観測された過去最多となる上位蜃気楼と気象

10:50~12:10

- (19) 杉原 直樹 (三重大大学)

南極振動由来のソマリジェットが及ぼす南北両半球間遠隔影響

- (20) 中西 友恵 (三重大大学)

アフリカ サヘルの対流変動が駆動する北半球大気循環パターン

- (21) 永田 桃子 (三重大大学)

シベリアの森林の消失が北半球の大気循環に及ぼす影響

- (22) 民田 晴也 (名古屋大学)

レーダ降雪観測の高度化を目指して —降雪粒子のミリ波散乱の特徴—

13:20~14:40

- (23) 小林 達也 (信州大学)

千曲川流域における年降水量の非定常頻度分析

- (24) 松丸 仁 (信州大学)

千曲川流域における年最大日降水量の非定常頻度分析

- (25) 葛葉 泰久 (三重大大学)

河川計画策定という観点からの極値降水量データの非定常性に関する研究

- (26) 小栗 祥希 (三重大大学)

平成 29 年 台風第 21 号に関する調査・研究 —浸水メカニズムについて—

14:40~15:20 基調講演『梅雨期の黒潮が大気に及ぼす影響』

万田 敦昌 三重大大学 准教授

15:20~15:30 講評・閉会の辞 立花 義裕 三重大大学 教授 (中部支部理事)

講演時間は 20 分 (講演 15 分、質疑応答 5 分)

